

2010 年度第 8 回執行理事会議事録

期 日：2011 年 1 月 8 日（土） 13:00～17:00

場 所：地質学会事務局

出席者：久田副会長 藤本常務理事 斎藤副常務理事 井龍 石渡 坂口 高木 中井
向山 各理事，（事務局）橋辺事務局長

欠席者（委任状提出あり）：宮下会長 渡部副会長 小嶋 内藤 西 平田 星 藤林
山口

*定足数（12，委任状含む）に対し，出席者 9 名，委任状 9 名，合計 18 名の出席で執行理事会の開催は成立。

*前回議事録の承認

I 審議事項（関連する報告事項と合わせて説明）

1. 地質用語国際標準対応委員会（仮称）の設立について(井龍理事)

井龍理事が委員長として委員会を組織する。

委員予定者：齊藤靖二 JIS 委員 石渡国際特任理事 脇田理事（IUGS の CGI 日本委員）西学術研究部会国内連携担当 齊藤副常務理事 西岡芳晴会員(産総研) 新妻信明（顧問）

専門委員を各部会から派遣要請（事案ごと）

- ・ 岩石部会＋火山部会で 1 名
- ・ 層序部会＋地域地質部会で 1 名
- ・ 第四紀地質部会 1 名
- ・ 海洋地質部会 1 名
- ・ 構造地質部会 1 名
- ・ 環境地質部会 1 名
- ・ 堆積地質部会 1 名
- ・ 応用地質部会 1 名

2. 見学旅行案内書のアーカイブ化および再出版の件(坂口理事)

古いものについては、著作権処理の同意を得る必要がある。ニュース誌に告知を出し
て対応する。他機関（過去には大学名などでの刊行もある）の名前で出ているものは、
相手先と協議する。既刊のリストアップは広報委員会で行う。

まず、地質学会の大会の巡検案内書をアーカイブし、再編・再出版等の活用方法は別
途議論する。

3. 2011 年度総会の開催日について

アンケートの結果

5 月 21 日(土)(都内で) 30 名（連合大会参加予定者 17 名、参加予定なし 13 名）

5月22日(日)(幕張で) 26名 (連合大会参加予定者)

どちらでもよい、未定、不確定など 15名

以上の結果から、5月21日(土)15時～を予定して、都内で行うこととし、会場をあた
ることとした。

4. 国際賞、学会賞、小澤賞、柵山賞についての各賞選考検討委員会委員の推薦

* 指定委員

現会長 宮下純夫

地質学会賞受賞者 鳥海光弘 (09), 石渡 明 (09), 榎並正樹 (08)

現編集委員長 小嶋 智

前編集委員長 久田健一郎

IAR 現編集委員長 井龍康文 前川寛和

IAR 前編集委員長 石渡 明 Simon WALLIS

* 執行理事会としての推薦者は木村 学会員, 磯崎行雄会員, 富樫茂子会員にお願い
する。

5. その他

1) 連携事業推進委員会について

連携事業推進委員会の委員には委嘱状を発行する。委員長は渡部副会長, 委員長代行
は委員長指名で上砂理事にお願いする。

2) 柏崎震源域掘削調査について技術評価委員会への委員の派遣について

上記について専門家の要請があった場合は、学会から推薦する委員のリストを提出す
る。旅費・謝金の受け入れは学会とし、当該委員に学会から支払うこととする。技術
評価委員会の報告には地質学会名を出す。

II 報告事項

(1) 運営財政部会：総務委員会

<共催・後援その他依頼・要請等>

1) 第5回ジオパーク国際ユネスコ会議の後援名義使用依頼について(2012/5/12-15、
島原市) 承諾した

2) 第48回アイソトープ・放射線研究発表会(共催)の論文募集と広報ポスターは
News誌、Geo-flash、HPに掲載済み

3) 第11回子供のためのジオカーニバル(後援、11/6-7)、日本ジオパーク糸魚川大会(後
援、8/22-23)、それぞれ開催報告があった。

<その他>

1) 11月19日付で出した声明“30学会(会員39万)会長声明「日本国家存立の基盤とな
る高度人材育成と科学技術予算強化を求める」”が、12月24日の臨時閣議で決定した
科学技術予算に反映されたとの報告が連合からあった。

<会員の動静>

1) 今月の入会者 (2名)

正会員 (2名) 宮崎雄一, 渡辺吉和(再入会), 正〔院割〕会員 (1名) 原田研一

2) 今月の退会者・逝去者

退会者 (正2名) 高橋功治, 新川喜久

逝去者 (2名: 正1, 名1) 田辺克幸 (逝去日: 9/7), 深田淳夫 (逝去日: 12/10)

3) 12月末日会員数

賛 28 名 誉 74 正会員 4140 (内訳: 正 3916, 院割 200, 学部割 24) 合計 4242
(昨年比 -115)

<会計>

1) リーフレット等の学会出版物には今後、奥付に一般向け価格を印刷することとした。

会員に対しては、その価格から割引をして販売をする。リーフレット「日本列島の地質環境」の600円とし、会員には500円で販売する。

2) 水戸大会の会計について、業務委託も含め、鉱物科学会との間で検討を開始する。

(2) 広報部会: 広報委員会

- ・第2回惑星地球フォトコンテスト応募状況: 87件 (1/6 現在). 1/31 締め切り.
地質情報展等で飾るときに、より地質学会が目立つようにしておく。

(3) 学術研究部会: 行事委員

1) 水戸大会について

- ・実行委員長より、茨城大学との共催については大学側の内諾を得たとの報告があった。
共催によって大学施設使用料は基本的には無料とのことであるが、冷房等のための電気使用料および施設清掃費については、応分の負担が必要とのことである。
- ・2学会の会長名で正式に共催依頼の文書を提出する。
- ・合同大会として、両学会の擦り合わせと具体的な事務処理等の検討について業務委託の概算見積り (約174万円) 等によって、会計的な面での検討。
発表申し込み、参加登録など具体的な手続きと処理方法の検討。
- ・学会会長間で共催についての取り決めに必ず結んでおくこととする。

(4) 学術研究部会: 国際交流委員会 (石渡)

1) 学術会議と地惑連合の「夢ロードマップ」への当学会からの意見について

意見を出した人の氏名をつけて連合に送った。地学教育の視点が抜けていること、防災・資源を強調した。

2) 「はやぶさ」微粒子分析結果発表関連の JAXA への要望書と JAXA から宮下会長あての回答

メールで回答があった。要望書を公表するとともに、メールの回答を公表できるか JAXA に問い合わせる。

(5) 編集出版部会：地質学雑誌編集委員会（小嶋編集委員長）

1) 編集状況報告（1月6日現在）。

- ・2010年度投稿論文 総数70編 [総説22（和文22），論説33（和文31・英文2），報告（和文4），短報9（和文9）ノート2（和文1・英文1）] 口絵12（和文7 英文5）
- ・査読中42編 受理済み 20編（うち通常号6 特集号14）
- ・116巻12月号：総説1・論説3・短報1・ノート1・口絵1（59ページ,12/28 発送済）
- ・117巻1月号：総説1・論説2・短報2・口絵1（約61ページ 校正中）
- ・2011年度投稿論文 総数2編[論説2（和文2）]

2) J-STAGE3 移行に関わる新規投稿査読システムについて

- ・Island Arc で使っている Scholar One Manuscript を選択する旨 JST に回答した(1/5)。
- 今後順次画面のカスタマイズ等開始する予定。

3) 編集事務の外部委託

- ・117巻1月号から編集事務の一部外部委託を開始した。現在著者校正終了段階。

1-3 で委託のならしを行い、4月から委託。

(6) 編集出版部会：アイランドアーク編集委員会（井龍編集委員長）

・編集状況の報告

20巻2号以降の受理原稿が少ない状態。プレカン特集が滞っており、先に受理になったものは通常原稿とすることも検討中。

- ・AEの交代 退任 Jon Blundy, 新任 高木哲一, Robert Stern

(7) 編集出版部会：企画出版委員会（担当：山口，藤林）

- ・リーフレットについて ISSN(国際標準逐次刊行物番号、定期刊行物等)番号の取得、およびリーフレットの区分について現在検討中。

(注) 単行本等は ISBN (国際標準図書番号)

- ・現在国立公園リーフレットシリーズでは ISSN 番号を取得しているが、その区分ではないものには利用できない。近々刊行される予定の「日本列島の地質環境」など、すべてのリーフレットに共通して利用できるよう「地質リーフレット」として早急に ISSN を取得し、その下にシリーズ等のカテゴリ分けを整理することがよいとのことになった。

(8) 社会貢献部会（藤林）

地質の日の行事は5月14日(土)に神奈川県生命の星・地球博物館で行う。山口理事の講演会とフォトコンテストの表彰および展示を行う。(執行理事会も現地で開催予定)

(9) オリンピック支援委員会(久田)

- ・12月15日に開催した第1回委員会の議事について方向された。

- ・国際地学オリンピックについて

科学技術振興財団(JFS)が寄付金の受け皿になってくれるよう要望中.

文科省から、他の科学オリンピックと同等の取り扱いがなされるとの見通しを得た.

2011年12月までに寄付金を集める必要がある.

- ・日本地学オリンピックは777人が受験した.

- ・平田理事を地学オリンピック支援委員会の追加メンバーとして、理事会に提案することを報告し、執行理事会の了承を得た.

(10) その他

- 1) 学術会議から要請のあった次期学術会議会員及び連携会員候補者についての情報提供は会長に一任した.

以上